



水産海洋シンポジウム

2010年代以降の地球温暖化や極端現象が海洋・水産資源に与えた影響

日時: 2023年3月19日(日) 9:30~16:10

場所: 東京海洋大学白鷹館講義室(オンラインとのハイブリッド開催を予定。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況に応じてオンライン形式に変更される可能性があります。)

コンビーナー・座長: 黒田 寛・亘 真吾(水産機構資源研)・片山知史(東北大農)・曾根亮太(愛知水試)

参加登録: <https://forms.office.com/r/BaPcSYDKPN> (締切 3月15日 23:59 JST)

URL: <https://www.jsfo.jp/sympo/index.html>

問合せ先: <https://forms.office.com/r/jREg1k2qFm>

* 昼休みに水産海洋学会の各賞授賞式、終了後の16:30から定時総会が開催されます。

司会: 亘 真吾(水産機構資源研)

水産海洋学会長挨拶 9:30~9:35

木村伸吾(一般社団法人水産海洋学会会長)

開催趣旨説明 9:35~9:50

黒田 寛(水産機構資源研)

座長: 黒田 寛(水産機構資源研)

1. 2010年代の日本周辺における気候変動の特徴

石井正好(気象研) 9:50~10:15

2. 蛇行する黒潮、南下しない親潮

美山 透・宮澤泰正・バーラモフセルゲイ・チャンユーリン・

林田博士・章 若潮(海洋研究開発機構) 10:15~10:40

3. 2000・2010年代の対馬暖流域の変動とその水産資源への影響

井桁庸介(水産機構資源研)・久賀みづき(北大低温研)・佐々千由紀・北島 聡・

高橋素光・和川 拓・阿部祥子・渡邊千夏子・瀬藤 聡(水産機構資源研)・

中村啓彦(鹿大水)・広瀬直毅(九大応力研) 10:40~11:05

4. 数年先までの気候変動予測の実際及び炭素循環変動予測への取り組み

建部洋晶・片岡崇人・渡辺路生・小山博司(海洋研究開発機構)・

渡部雅浩(東大大海研)・河宮未知生(海洋研究開発機構) 11:05~11:30

各賞授賞式

11:30~12:00

休憩

11:30～13:00

座長: 曾根亮太 (愛知水試)

5. 2000年代以降に見られた西部北太平洋における浮魚類の分布変動
富士泰期 (水産機構資源研) 13:00～13:25
6. 奄美海域における主要沿岸資源の漁獲量と海面水温の関係
宍道弘敏 (鹿児島県大島支庁) 13:25～13:45
7. スジアラ地域個体群の資源特性に見られる緯度勾配から推察する温暖化が沿岸性魚類へ与える影響
奥山隼一 (水産機構技術研)・宍道弘敏 (鹿児島県大島支庁)・
海老沢明彦 (沖縄水海技セ)・山口智史・中川雅弘 (水産機構技術研) 13:45～14:05

座長: 亘 真吾 (水産機構資源研)

8. 内湾域における水産資源の変動
曾根亮太 (愛知水試)・岡部 久 (神奈川水技セ)・木村祐貴 (大阪環農水研)・
日比野 学 (愛知水試) 14:05～14:25
9. 気候変動が京都府の二枚貝養殖環境に及ぼす影響
船越裕紀・田中雅幸 (京都府海セ)・小林志保 (京大フィールド研)・
藤原建紀 (京大名誉教授) 14:25～14:45
10. 気候変動への漁業者の対応と流通面での課題
石谷 誠 ((株)はまげん) 14:45～15:10

休憩

15:10～15:30

11. 総合討論 15:30～16:10
座長: 片山知史 (東北大農)

(シンポジウム終了後の 16:30 から一般社団法人水産海洋学会 2023 年度定時総会)

開催趣旨

21 世紀最初の 10 年は Decade of climate extremes と呼ばれ、極めてまれに起こる様々な現象 (以下、極端現象) が世界中で観測された。また、2000 年代～2010 年代前半には、全球平均表面気温の上昇が緩やかになる状態、いわゆる Hiatus が継続していたが、2010 年代中盤以降には、地球温暖化が再び加速に転じており、日本周辺海域でも海洋熱波が頻発している。一方、2000 年代～2010 年代中盤の日本周辺海面水温には、地域的・季節的な寒冷化が観測され、多魚種に生じた系統的な水産資源変動との関連が示唆されている。要するに、2010 年代以降、過去には想定されなかった事象が日本周辺海域で多数発生している。



そこで、本シンポジウムでは、2010年代以降の地球温暖化および海洋熱波や寒冷化等の極端現象に焦点を当て、日本周辺の海洋・水産資源への影響について、最新の研究成果を紹介し、現在～近未来の状況ならびに対策や課題を議論する。